

留学生におくる令和のころ

日本の公衆衛生

令和2年7月20日

全国日本語学校連合会

コロナウイルスの感染で皆さんも普通と異なり、様々な「違い」を感じていると思います。もちろん思い描いていた日本語学校の毎日と全く異なる毎日や、アルバイトや日本の人々の動きなど全く異なる環境に戸惑いもあるのではないのでしょうか。その戸惑いの中に、日本人がコロナウイルスの影響でかなり神経質になってしまっており、マスクをしなければならなかったり、あるいは、あまり飲食店が開いていなかったりするところがあると思います。外国から来た皆さんも生活の面でも様々な不自由があるのではないのでしょうか。

さて、日本は世界から「なぜ日本だけコロナウイルスの感染者が少なく、また、死者数も少ないのか」ということが話題になっています。日本の奇跡とか、日本の不思議というような言い方をされていますね。これについては様々な意見が出されています。京都大学の教授で IPS 細胞でノーベル賞を受賞した山中教授は「遺伝子の違い」などということを行っていますし、麻生財務大臣は「民度の違い」というようなことを言っております。

私は科学者でも医者でもありませんが、しかし、一つ言えることは、他の意見も含めてすべてが正しくてすべてが要因であるということが言えるのではないかと思います。

コロナウイルスで緊急事態宣言を政府が出した時に、日本は「外出自粛要請」ということをしました。命令でもありませんし、また、破っても罰則もありません。当初諸外国はそんなやり方で日本は封じ込めに失敗するのではないかとされていました。しかし、アメリカでは「働かせろデモ」が発生し、そのデモを收拾するのに大変でした。しかし、日本は逆に営業しているお店に対して妨害をする「自粛警察」というような自警団的な意と人が発生しています。政府のいうことに対して、それに反発するデモが起きる国と、それを守らせようとする自警団ができるのではかなり違います。

また、日本の厚生労働省は「手洗い・うがい」を推奨しました。日本の芸能人なども手洗い動画をたくさん流して、マスコミで話題になったと思います。みんなで率先して政府の言うことを守り、そして、それ広めて日本人同士で感染を広めない努力をする。「強制しないのに、お互いに守ることでお互いを守る」というような考え方は、まさに日本人の国民性であり、特徴の一つであると思います。

さて、「手洗い・うがい」ということは、明治時代に日本では広まります。その前江

戸時代の末期安銭時代に「コレラ」が流行します、外国船が来たことで感染が長崎から広まったといわれています。ちなみに、当時日本では「コレラ」のことを、病気にかかるとすぐにコロリと死んでしまうことから「コロリ」といって恐れていました。そしてその内容を「虎狼狸」という妖怪の仕業であるといっていたのです。

このコレラが明治の大事にも流行したんですね。明治10年、当時の内務卿大久保利通は「虎列刺病豫防心得書」というものを出し、全国にコレラ予防を通達します。この中には、石炭酸（フェノール）による消毒や便所・下水溝の清掃などの予防対策などが書かれていますし、また、庶民においては「手洗い・うがい」をするように伝えています。それだけではなく、『虎列刺』病者アル家族で看護に当たる者以外は、他家に避難させて「妄（みだ）リニ往来」することを許さず、と感染防止のための外出自粛が書かれています。これらは「虎狼狸」という妖怪によってなされるのではなく、人間が衛生的にすれば去ってゆく病であるということも書いているのです。

今から150年前の明治時代と、現在コロナウイルスで行っていることはほとんど同じことをしているのです。日本では、この時から「公衆衛生」ということが広まることとなります。日本人の中で「まだ食べられるのに表示してある賞味期限が来たからといって捨ててしまう人が多い」というのも、この時代の衛生観念が現在に生きているからです。

そして日本はこの考え方を世界に広めています。

1898年（明治31年）、日本は台湾に児玉源太郎総督を派遣します。総督は自らの補佐役である民政局長に後藤新平を指名するのです。後藤新平は後藤は「台湾経営上旧慣制度調査ニ関スル意見」を提出し、その中でこういっています。「台湾ノ地タル叢爾（さいじ）タル一孤島ニシテ其ノ面積甚ダ広カラズト雖（いえども）、中ニハ生蕃（せいばん）ト称スル先天的凶悪ノ野蛮人アリ、支那移民住民アリ、移住民中ニハ福建人アリ、広東人アリ、更ニ之ヲ小区分スレバ、泉州人アリ、シヨウ州人アリ、潮州、惠州、其ノ他、興化、永定等ノ人種アリ、此等ハ皆各其ノ風俗習慣ヲ異ニスルヲ以テ、古来分頻械闘頻々相踵キ、互ニ鬩牆（げきしょう）的戦争ヲ為スコト屢ナリ。殊ニ領台後ニ於テハ本邦人ノ渡来スルアリ。随テ私法的法律関係ノ旧償ニ於テモ地方ニ因リ差異アルヲ免レズ」（同）

この考え方に基づいて、後藤新平は様々な政治を行います。公衆衛生ということ言えば、当時の台湾の風土病があり、多くの人が命を落としていましたが、後藤新平は、上水道と下水道を分け、上水道での手洗いやうがいを徹底することによって、これらの風土病を克服します。また、そのことが長く続くように、台湾の人々の教育を充実させ、小学校の整備や台北における帝国大学の誘致、そして、優秀な人材の日本本土への留学をできるようにしていったのです。

このようにして、当時流行していた風土病だけでなく、流行していたペストやコレラも克服していたのです。また、その時に重要になる「水」は、第七代総督であった明石元次郎が今でもかんこうちとして有名な日月潭を作り、その後台湾では有名な日本人である八田与一がダムを作ったことによって、台湾では豊富で綺麗な水を維持

することができたのです。

今回のコロナウイルスにおいて、台湾の人々が流行した時に、コロナ対応の優等生といわれたのが台湾でした。その台湾の人々は「公衆衛生を教えてくれたのは日本」といつてくれたことを思い出します。

このように日本というのは「公衆衛生」とか「清潔」ということに関しては、かなり敏感です。もちろんその感覚を「民度」と表現するかどうかは表現の問題です。

さて、そのような日本人は「仲間」というか「集団」の中に入った人を重視し、外の人を畏怖するというような感覚を持っています。民俗学的には「マレビト」といいますが、いつも普段の仲間の中で、あまり言葉を使わずに意思表示をすることができる「以心伝心」の仲間の中でのいることが普通になっているのです。そのことが今回の「自粛警察」のような動きの中に入ってきてしまいます。もちろんこの国民性はとくちょうでしかなく、コロナウイルスに対しては非常に有効でしたが、他の場合にはうまくゆかない場合があります。しかし、日本人の社会にはそのような特徴があるということが、もっともよく見える時期なのではないでしょうか。

このような時期で大変ですが、普段は見えない日本の姿を見ることができると考えて、頑張ってください。